

学びの広場 2017

「若さみなぎる」立花学園高等学校

町内の『集会施設・学校紹介』の一環として、立花学園高等学校の「町のイベント・行事への協力活動」に焦点を当ててご紹介します。

【問い合わせ】教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

同校の生徒さんが、町中で爽やかにあいさつを交わす姿や、スポーツや文化活動などにおいて活躍する様子からは、多くの町民の方が元気をもらっているのではないのでしょうか。

町では同校に、若葉まつり・まつだ観光まつり・文化祭・福祉あつたかフェスタなどの町の行事や、福祉施設のボランティア活動、

国際交流事業などにご協力を頂いています。チャリデーニングのダンスと吹奏楽部の演奏は町の行事に華を添えてくださっています。同部の出演を毎年楽しみにされている方も増えていきます。

あいさつ運動や部活動における指導について、六郷教頭先生と広報の穀田先生に伺いました。

礼儀はあいさつから

二代目校長を務めた込山安子先生による「礼儀はあいさつから。先に相手からあいさつされたら負けですよ。」という教えは、今でも同校の教育の根幹にあります。

あいさつは、特に力を入れ、在籍する1240人全員が、しつかりあいさつができるように指導されており、校内の至るところで「おはようございます」「こんにちは」というあいさつが飛び交っています。気恥ずかしさを感じる生徒さんも多いそうですが、それは、郊外における朝や放課

後のあいさつ運動につながり、声を出すうちに、あいさつをするのも気持ちが良いものとして少しずつ理解されています。

チャリデーニング部について

チャリデーニング部には12人の部員が在籍しています。顧問の馬場先生を中心に、平日はもちろん土・日曜日の練習も欠かれません。日頃は、体育祭や文化

祭、町行事に出演しています。関東チャリデーニング選手権大会にも出場していますが、かなりの難関であり、生徒たちは、目標に向かい日々練習に励んでいます。



部員と顧問の馬場先生

吹奏学部について

部員は年々増え、現在20人が在籍しています。顧問の鈴木先生を中心に、一丸となって練習し、音楽を楽しんでいます。

定期演奏会や、コンクールへの出場のほか、町の行事やイベントに参加しています。毎年7月に出場するコンクールでは、2

年前に県西湘地区で金賞をとりました。土・日曜日の練習も充実しています。

町環境整備は共に
川音川と惣領地域の清掃



まつだ観光まつりのパレードに参加

町の環境整備は共に 川音川と惣領地域の清掃

同校は総合的な学習の時間に、川音川の環境整備をしています。近年は全校生徒やOBの方と一緒、松田地域の清掃活動をしています。「少しでも地域に役立てれば」という思いで続けています。



河原の清掃活動の様子

スコット先生&テイス先生のミニ英会話

- It's nine o'clock. 9時です。
- It's five past nine. 9時5分過ぎです。
- It's a quarter past nine. 9時15分過ぎです。
- 1分~29分は「It's X分 past ○時」と言います。「past」は「○時X分過ぎた」という意味です。

時間表現 編

What time is it?

(今は)何時ですか？
(アナログ)

- It's half past nine. 9時半です。
- It's twenty to ten. 10時20分前です。
- It's a quarter to ten. 10時15分前です。
- 31分~59分は「It's X分 to ○時」と言います。「to」は「○時までX分が残る」という意味です。

松田文化財探訪

矢倉沢往還22

文化財保護委員 草門 隆

「上茶屋について」(その2)

知見と調査能力に秀でた、郷土史家・井上清氏の、昭和43年当時の記録の中に、「上茶屋と下茶屋と言うけれど、その土地の古老の話では、此処の家が茶屋であったと言う申し伝えは無いようである。ただ、白装束の大山参りの道者が、川を渡り千村(秦野)の方に抜けていったのは常に見ていたと言う。」(原文のママ)とあります。

筆者の記憶では、昭和30年代の下茶屋の鍵和田姓は3軒(現在は105所帯)、上茶屋は、7、8軒(現在10所帯)でした。



土手と河川敷広場(奥が川音川)

本題の「もとは上・下茶屋は、川音川は古代・中世の頃は神山の地先から地形に沿って、大井町方面に流れていたため、今の茶屋地区は陸続きでした。では、どの様にして分断されたのか? それは、神山上(字・和田崎)から、本来の川音川の流れをあえて土手(和田堤により松田山側に向け、川尻を現在の三角土手としたため「人工の川」とも言えます。

↓川音川 ↓広場



従って、川尻の町屋・仲町屋が分断されました。その時期については現在2説あることから、自説を含め後述致しますが、その後その堤も破られ大きく被災し、正徳5(1715)年には、「神山側に引き下げた新規の和田堤(現状)を築く。」と史書にあります。

この川音川の流路変更により元の川の跡を開墾し水田を作り、家屋も高台から移転させたのではないのでしょうか。従って、神山の地は川床・川敷だったため地震に強いと言われています。

神山阿弥陀堂での「百万遍念仏」も疫病祈願と併せ宝永・正徳の頃の度重なる被災者への供養のためのものとも推測します。

堂念仏用の鉦の裏に「正徳式年辰五月」と刻んであり正徳式年とは1712年です。

次回は、矢倉沢往還の前身と思われる、上茶屋から松田本村への道について記します。